



中部の

# エネルギーを 築いた

# 人々

福沢桃介と川上貞奴をめぐる人々  
(その3—川上貞奴と名古屋)

福沢桃介は、1909(明治42)年から大正時代を経て1928(昭和3)年の約20年間、名古屋を中心に事業活動を展開し日本第3の都市に発展させた。

最初に1909年、愛知石炭商会の下出民義社長、三井銀行名古屋支店長矢田績との三者会談から、名古屋電灯株式会社への投資を始め、株主名簿に登録され、顧問、相談役、常務に就任した。そして地元資本で台頭してきた名古屋電力株式会社を合併させた直後に辞職した。その後、1913(大正2)年に再度株主からの要請に応じ、常務から翌年に社長に就任した。

この頃から木曾川水系を始めとする水力発電所の建設に取りかかると名古屋で関係者との打合せ、来客の接待など滞在が多くなり、東京から名古屋に居を移すことを決意した。

一方、初恋で旧知の川上貞奴は、オッペケー節で一世を風靡した興行師の夫・川上音二郎が亡くなった後の追善興行として1917(大正6)年、東京・明治座での引退興行を終えると、桃介との依頼に応え、名古屋での生活が始まった。そして蚕が好きで服飾に関心があったので、桃介から50万円(現：約25億円)の出資を得て川上絹布の建設に取りかかった。また、川上貞の名義で名古屋市東区東二葉町に約二千坪の土地を購入し川上貞奴邸を新築した。貞奴が女主人となったこの建物は二葉荘、双葉居、二葉館、またその豪華さから二葉御殿などとも呼ばれた。

貞奴は1918(大正7)年、川上音二郎の子・飯野広三を養子にし、後継者として川上絹布の取締役役に就任させた。そして1920年に桃介の従姉の子、岩崎本家・岩崎藤太郎の孫・富司を養女とした。二人は1924(大正13)年に結婚、二葉御殿に住み孫・川上初が生まれた。

日本最初のダム式発電所・大井発電所が1928(昭和3)年に竣工すると桃介は東京での活動が多くなり、一方、貞奴も東京二子玉川に川上児童楽劇団を創設、東京牛込河田町に家を見て東京に戻り、二葉荘を岩崎広三・富司に任せた。その後、1937(昭和12年)に土地建物ともに分筆売却処分された。

今回は名古屋で事業を興した川上絹布と二人が過ごした二葉荘について紹介する。二葉荘は後に、川崎舎恒三(当時：大同製鋼副社長)が購入し、1957(昭和32)年から大同製鋼社員用クラブとして利用されたが、2005(平成17)年に名古屋市へ寄付譲渡とされた。名古屋市は近代化の歩みを伝える多くの建物が残されているエリアを「文化のみち」と名付けた。その拠点として二葉館は東区榑木町に移築復元され、2005年に「名古屋文化のみち二葉館(旧川上貞奴邸)」がオープンした。



川上 貞(貞奴):日本初の女優  
1871(明治4)年~1946(昭和21)年  
出典:旧川上貞奴邸復元工事報告書

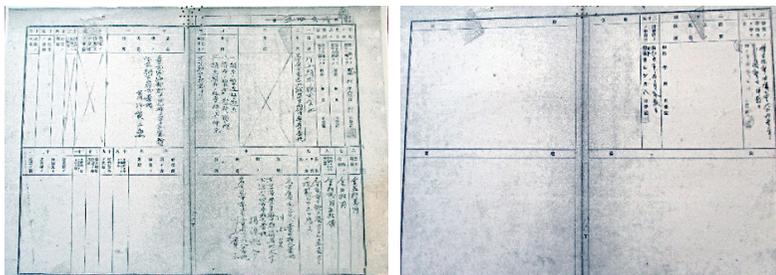


なお、昭和初期の名古屋市街全図より抜粋した地図を参考にみると  
 A地点：川上絹布の工場、B地点：東二葉町にあった川上貞奴邸、C地点：現在の「文化のみち二葉館(名古屋市旧川上貞奴邸)」である。

## 1 川上絹布株式会社の設立

名古屋市上飯田地区は庄内川、矢田川以南  
 と黒川に広がる地域で水が豊富で伏流水が得

られ、地価も安く、区画整理によって道路も  
 整備され交通機関も便利になってきたので大



(資料1：川上絹布株式会社の登記謄本)

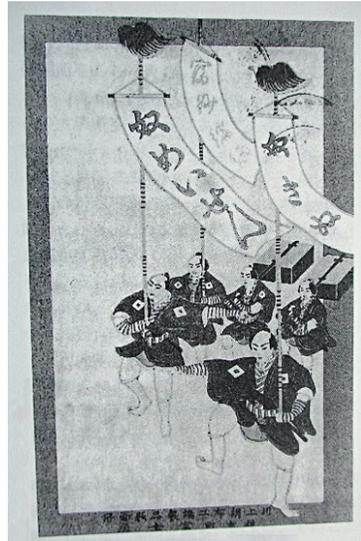
正から昭和時代の初めに多くの工場が建設された。この頃の川上絹布工場付近には東京モスリン、東洋紡績、興和紡績などの繊維工場が進出していた。

1921(大正10)年に登記された川上絹布株式会社の登記簿謄本による概要は下記の通りである。

- (1) 商号：川上絹布株式会社
- (2) 本店：名古屋市東区上飯田町字向砂田34番地（注：昭和19年より名古屋市北区に編入）
- (3) 目的：①絹糸の製造ならびに撚糸  
②絹布の製造、加工ならびに整理  
③絹糸絹布の販売ならびに其の仲立
- (4) 設立の年月日：大正10年11月7日
- (5) 資本の総額：金50万円  
（1株の金額：金50円）
- (6) 取締役の氏名、住所  
①川上貞、名古屋市東区東二葉町18番地  
②福沢桃介、東京都豊多摩郡渋谷町大字下落合436番地（注：東京・渋谷の福沢桃介の本邸住所）  
③川上広三、名古屋市東区東二葉町18番地（注：川上貞奴の養子）
- (7) 監査役の氏名、住所：荒川虎之丞、愛知県海部郡十四山村大字小宝新田（注：愛知県農工銀行取締役などを歴任）
- (8) 解散の事由および年月日：株主総会決議

により大正13年10月13日解散

- (9) 精算終了の年月日：昭和4年4月30日  
このように資本金50万円の出資を得て、大正8年頃工場建設に着手、操業を始めた。当時の川上絹布の広告を見ると綾織や薄手のベール類、輸出向けの高級絹布などを製造販売していたが、大正13年に倒産、昭和4年に清算終了した。



(資料2：当時の川上絹布の広告)

## 2 旧川上貞奴邸の二葉荘

旧二葉荘（移築前の建物を旧二葉荘と称する）の最初の所在地は名古屋市東区東二葉町18番地にあり、昭和55年に町名変更となり住所が東区白壁3丁目1001番となった。

土地の購入は大正6年9月に薬問屋を経営していた中北伊助から土地：1,307.6坪を購入、大正8年に名古屋土地株式会社から土地：658.03坪を買い増し、最終的に合計1965.6坪の敷地であったからその広さが分かる。



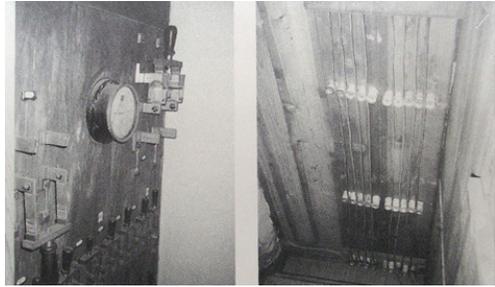
(資料3：創建時と復元建物の外観写真)

川上邸の設計施工を請負ったのは、当時アメリカ風の住宅を手がけ住宅界に一世を風靡した「あめりか屋」であった。残念ながら設計施工した図面や書類は残されていないが、川上邸の敷地内に「あめりか屋名古屋臨時出張所」を構え建設工事を行っていた。

ここで二葉荘の特徴すべき設備を2点紹介する。

### ① 電気設備

解体時に発見された大理石製の分電盤や、壁から屋根の内側に走る多数の屋内配線などから電灯・電熱器・扇風機・電気アイロン、炊飯電熱器(電気釜)など最新の電化製品、屋根の上には夜でも庭を明るく照らすサーチライト、停電しても照明が出来る自家用発電機が設置されており、まさしく桃介が名古屋電灯の社長であったことがうかがえる。



(資料4：創建時の大理石製の分電盤と屋内配線、  
出典：旧川上貞奴邸復元工事報告書)

### ② ステンドガラス

川上邸のインテリアの特徴として、当時の代表的な画家である杉浦非水がデザインしたステンドガラスが使用されていることである。原画を担当した杉浦非水は、福沢桃介の妹の

夫に当たる義弟であった。原画のテーマは「初夏」でユリ、アジサイ、シャクナゲ、カキツバタ、ハナクワイ、ホオノキ、ホテイアオイ(=ヒアシンス)、モミジアオイ、そして千鳥くらいの大きさの鳥「鶺鴒(ばん)」で、宇野沢ステンドグラス工場の製作であるという。



(資料5：大広間ステンドガラスを背景にして、開館18周年記念演奏会「大正琴&ミュージックベル：大正ロマンの調べ」を開催2023年2月11日撮影)

なお、二人が名古屋に滞在した以降の年表は下記の通りである。

#### (参考資料) 名古屋滞在以降の年表

川上貞奴	西暦	和暦	福沢桃介
帝国女優養成所の女優が国内を巡演	1909	明治42	名古屋電灯株主名簿に初登録
			名古屋電灯顧問、相談役に就任
大阪に帝国座を建設	1910	明治43	名古屋電灯取締役、常務(5月)に就任
			名古屋電灯常務を辞任(11月)
川上音二郎、死去	1911	明治44	四国水力電気、浜田電気の社長に就任
貞奴一座、音二郎追善興行を公演	1912	明治45	衆議院議員に当選(千葉県政友会公認)
福沢桃介との交際深まる	1913	大正2	再度名古屋電灯常務に就任(1月)
	1914	大正3	愛知電気鉄道取締役社長に就任

	1914	大正 3	名古屋電灯取締役社長に就任（8月）
明治座で引退興行	1917	大正 6	電気製鋼所を設立、社長に就任（11月）
引退興行を終え、名古屋で生活始まる	1918	大正 7	東海電極製造を設立、相談役に就任
川上絹布を創設し建設を始める			木曾電気製鉄を設立、社長に就任
飯野広三を養子に迎える			
二葉御殿新築(名古屋市中区東双葉町)	1919	大正 8	矢作水力を設立、相談役に就任
			東海道電気鉄道を設立、社長に就任
			大阪送電を設立、社長に就任
			名古屋セメント 取締役に就任
岩崎富司・貞奴の養女となる	1920	大正 9	3社合併し大同電力を創設、社長に就任 (木曾電気工業、日本水力、大阪送電)
	1921	大正10	大井ダム発電所起工
			大同製鋼を設立、社長に就任
	1922	大正11	北恵那鉄道を設立、社長に就任
			愛知電気鉄道が東海道電気鉄道を合併
			東邦瓦斯が名古屋瓦斯を合併
			豊国セメントの社長に就任 (名古屋、佐賀セメンを合併)
養子の岩崎広三・富司の結婚	1924	大正13	大同電力外債発行のため米国出張
二子玉川に川上児童劇楽団を創設			ユニオン大学より理学博士の学位受賞 大井発電所竣工
川上児童劇楽団を率いて各地を巡演	1926	大正15	天竜川電力を設立、社長に就任
			帝国劇場取締役会長に就任
			御嶽山謝恩塔建立
熱海に別荘を建設	1928	昭和 3	実業家引退を表明
	1931	昭和 6	貞照時地鎮祭に隣席
貞照寺建立、門前に萬松園を新築	1933	昭和 8	
東京牛込の邸宅に転居	1937	昭和12	
	1938	昭和13	東京渋谷の本邸で死去
鵜沼の萬松園に疎開	1945	昭和20	
熱海の別荘で死去	1946	昭和21	
文化のみち二葉館・旧川上貞奴邸開館	2005	平成17	

(寺沢 安正)